



まごころ便り

令和5年7月19日
荒川区立第七中学校
学校だより 7月号
校長 千葉 貴

一冊の本との出会いが新たな自分との出会いに

荒川区立第七中学校
校長 千葉 貴

1学期もいよいよ明日で終業式を迎えます。始業式からこれまでの間に、保護者・地域の皆様には多大なるご支援をいただき、感謝申し上げます。

さて、42日間の長い夏休みが始まります。生徒のみなさんには、時間の使い方を工夫して、充実した夏休みを過ごしてほしいと思います。その中でも特に『家読』に取り組んでください。一日に何時間も読書をする必要はなく、一日10分でも良と思います。夏休み期間中も図書館は開館していますので、7月13日に発行した“七中図書館だより”を参考に読書活動に取り組んでみましょう。

私自身、読書が好きで活字から得る様々なものが自分の刺激になっています。昨年はおおよそ30冊くらい読んでいます。(私の尊敬する先輩<元国語科教諭>は、年間200冊の本を読んでいましたので、年間30冊が多いほうだとは思っていませんが…)

こういうことを生徒に話すと「先生は中学時代どんな本を読んでいたのですか?」と聞かれることがあります。実は私の読書デビューは遅く、読書が「面白い」と感じたのは大学1年生の時でした。入学後、知り合った友人が本を読んでいるのを見て「そんなに面白いなら何か一冊貸してほしい」とお願いして借りたのが、『永遠のジャック&ベティ』(著:清水義範・講談社文庫)でした。この本の知的、かつ、くだらない短編集を読んだことで、読書に対する高尚なイメージが崩れ、ジャンルを問わずに乱読するようになりました。今も色々な本を読みますが、作家でいえば浅田次郎や司馬遼太郎が好きで、生き方の視点として大きな影響を受けています。特に、『燃えよ剣』(著:司馬遼太郎・新潮文庫)で描かれる土方歳三が大好きで、自らもかくあるべしと思いつつ日々を送っています。(現実の自分とは、程遠いのですが…)

昨年の夏休みは、隆慶一郎という作家に見事にハマリ、ひと夏中、忍者や武士になりきっていました。また、最近読み終えた『家康、江戸を建てる』(著:門井慶喜・祥伝社文庫)では利根川東遷や武蔵小判、神田上水、江戸城の石垣と天守閣のことがよく分かり、大げさに言えば、壮大な荒野を開拓し大都市・江戸を作った家康と、その家臣たちと、職人たちが己の仕事にプライドを持って江戸を「建てた」のだと知り、自分自身の頭の中がアップデートされました。

本は世界中にたくさんあり、一冊の本との出会いで新たな自分と出会うことができると思います。本校の図書館には1万3千冊の本があります。

時間を自由に使えるこの夏休み、どのように過ごすのかは皆さん次第です。時間を大切に新たな自分に出会ってください。

保護者の皆様へ

本校に勤務する2名のスクールカウンセラー(都・区)はお子様や保護者の気持ちや考え方など、「こころ」について助言する心理の専門家です。お子様はもちろん保護者の方の相談も可能ですので、ぜひご利用ください。学校までお気軽にお問い合わせください。

勤務日 須賀裕子(都カウンセラー) 木曜日 9:00~17:30

清田皐月(区カウンセラー) 月曜日 8:15~1:30 または 14:00~17:00

※ 原則として長期休業期間の勤務はありません。